

## 第1章 志教育支援事業（推進地区指定）の取組

### ◇ 加美町立中新田中学校区

1	推進の概要	1
2	志教育の推進全体構想図	4
3	実践の成果と今後の課題	5
	【事例1】小学校間交流	7
	【事例2】小学校と中学校の交流	9
	【事例3】中学校と高等学校の交流	11

# 志教育支援「中新田中学校区」の取組

中新田中学校区連絡協議会

## 1 推進の概要

### (1) 志教育支援事業の趣旨

高度情報化や経済活動のグローバル化の一層の進展により、これからの社会は、これまで以上に変化の激しいものになることが見込まれる。そうした変化の中でたくましく生き抜いていけるよう、必要な知識・技能を確実に身に付けるとともに、自らの適性を的確に把握し、社会の中で自らが果たすべき自己の役割を将来にわたって展望し、その実現に向けて強い意志をもって自律的に行動できる人づくりを進めることが求められる。

そこで、小中高等学校の全時期を通じて、人や社会とかがかわる中で社会性や勤労観を養い、集団や社会の中で果たすべき自己の役割を考えさせながら、将来の社会人としてのよりよい生き方を求めさせていく志教育を推進し、県内各小中高等学校及び特別支援学校に普及する。(宮城県教育委員会「志教育支援事業実施要項」)

### (2) 指定期間

平成26年4月1日から平成27年3月31日まで(1年間)

### (3) 事業の内容

- ① 推進地区連絡協議会を設置し、運営する。
  - ア 実践目標、実施計画、実施方針、小中高連携内容を設定する。
  - イ 全体計画、各校種での実施計画・年間計画を作成し、整備を図る。
  - ウ 各校種の事業に関する連絡・調整を図る。
- ② 家庭及び地域、小中高との連携した事業を検討し実施する。
- ③ 志教育の視点から、各教科・領域等の授業内容を再検討する。
- ④ 体験活動を充実させる。
- ⑤ 事例発表会の充実を図る。
- ⑥ 実践報告書を作成する。

### (4) 中新田中学校区の概要

加美町は平成15年4月1日に旧中新田町、小野田町、宮崎町の3町が合併して誕生した。西側には、栗駒山、船形連峰等の奥羽山脈が連なっており、東側には、中新田地区の住宅地市街地周辺と鳴瀬地区、広原地区南部を中心に米作を中心とした田園地帯が広がり旧古川市に隣接している。南側は鳴瀬川を隔てて色麻町、北側は丘陵山林地帯を経て旧岩出山町に接している。

中新田地区は、藩政時代より商工業地帯として開発が進められ、地酒・草刈り鎌の製造が現在も受け継がれている。広原地区の大部分は丘陵地帯であり、林業の他に酪農や果樹栽培等が行われている。また、町では「歴史文化」の町づくりを目指して、バッハホール、縄文芸術館や墨雪墨絵美術館、東北陶磁文化館、町立図書館などを建設し、文化の振興にも力を入れている。

地区内には、私立幼稚園2園、町立保育所が1園、小学校3校、中学校1校、県立高等学校1校がある。これまで、小小連携事業や小中高連携事業で、相互に職員が授業参観や情報交換を行ってきた。また、統合を踏まえた児童による交流学習や中1ギャップの解消等をねらいとして小学生の中学校訪問を実施してきた。今年度の各校種

間の交流会では、これまで取り組んできた志教育の実践を紹介し合い、それぞれの学びや成果について理解を深めたり、学習や部活動の交流を通して、児童生徒個々の達成感や自己有用感を高めたりすることができた。

今後も、小中高の連携を積極的に図るとともに、児童生徒の発達段階に応じた的確な指導・支援の工夫を図り、地域とのかかわりを大切にしながら、より一層の志教育の推進に取り組んでいくことが望まれる。

(5) 中新田中学校区の志教育の推進目標

小中高等学校の交流学习や部活動交流等の連携を積極的に図り、児童生徒の発達段階に応じた的確な指導・支援を行い、地域の自然・人からの学びを土台に、ふるさと中新田に誇りをもち、ふるさとを語れる社会人を育てていく。

(6) 中新田中学校区の志教育の取組方針

- ① 推進地区内において志教育について共通理解を図るとともに、各校における志教育の推進を図る。
- ② 各校の発達段階に応じて実践する志教育において、児童生徒に付けたい力を明確にし、地区内の志教育の充実・推進に努める。
- ③ 小中高等学校の連携のよさを生かした志教育の取組を推進する。

(7) 中新田中学校区の志教育連携事業

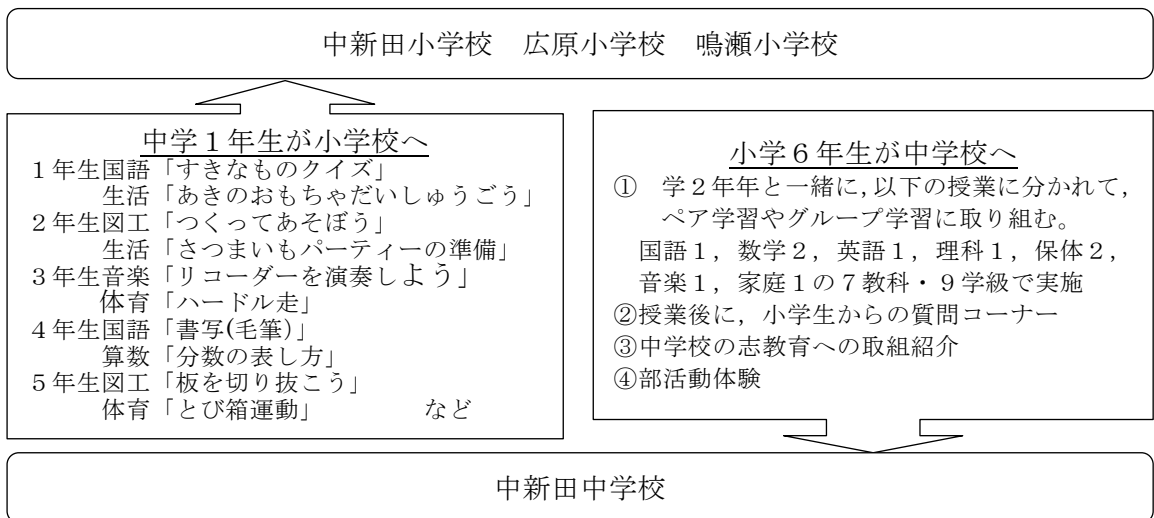
これまでの取組では、小小、小中連携事業として、相互に職員が授業参観や情報交換を行ったり、中1ギャップの解消をねらいとした小学生の中学校訪問を実施したりしてきた。しかし、児童生徒同士のかかわりが薄く、共有する活動が少なかったこと等が課題として挙げられたことから、今年度は、各校種間の交流会のもち方を見直し、以下の取組で、事業の展開を図った。

① 小小交流会【平成26年10月7日（火）】

- 〈ねらい〉 ・ 6年生同士で交流させ、仲間意識をもたせる。
- ・ 各校の志教育にかかわる活動を紹介し合うことで、中新田地区のよさを確認する。

〈内 容〉 交流会Ⅰ・・・自己紹介、中学校でしたいこと等の発表  
交流会Ⅱ・・・各校の活動紹介、地域のよさや将来の中新田地区についてのグループ討議

② 小中交流会【平成26年11月18日（火）】



③ 中高交流会【5月より、各部顧問で連絡確認し活動】

〈部活動交流〉

ソフトボール，サッカー，卓球，バレーボール，バスケットボール，カヌー等

〈ボランティア交流〉

ソフトテニス部による河川敷清掃等

(8) 中新田中学校区志教育テーマ

加美町町民憲章の「夢 海をめざし 愛 ふるさとに帰る 鮎の凜烈 川よ語れ」から、若鮎のように、ふるさと中新田でたくさんの栄養（学び）を受け、大海（広い世界）を目指して飛躍してほしいという願いから、中新田中学校区志教育のテーマを下記のように設定した。

中新田中学校区志教育テーマ

**「夢をいだいて大海をめざそう」**

～ふるさと中新田に誇りをもち ふるさとを語れる大人に～

子どものころの夢を、希望にふくらませ  
志をもった大人として 成長して行ってほしい  
いつまでも、ふるさとに誇りをもち  
ふるさとを語れる大人になってほしい

(9) 主な実施経過と今後の予定

年 月 日	実 施 内 容
平成26年	4月25日 第1回宮城県志教育支援事業推進会議
	5月19日 第1回中新田中学校区推進地区連絡協議会
	6月16日 第1回中新田中学校区担当者会議
	6月24日 第2回中新田中学校区推進地区連絡協議会
	7月 1日 第1回北部管内大崎地区推進地区連絡協議会
	7月 2日 第2回中新田中学校区担当者会議
	8月 4日 第2回宮城県志教育支援事業推進会議
	8月20日 第3回中新田中学校区担当者会議
	8月26日 第3回中新田中学校区推進地区連絡協議会
	9月30日 小小交流会打合せ会（担当者）
	10月 2日 第4回中新田中学校区担当者会議
	10月 7日 小小交流会（3小学校）
	10月15日 第4回中新田中学校区推進地区連絡協議会
	11月18日 小中交流会（中新田中学校区）
	11月25日 第5回中新田中学校区担当者会議
	12月 5日 第5回中新田中学校区推進地区連絡協議会
	第2回北部管内大崎地区推進地区連絡協議会
	12月17日 第1回パネルディスカッション練習会（小中高）
平成27年	1月14日 第6回中新田中学校区担当者会議
	1月22日 第2回パネルディスカッション練習会（小中高）
	2月 5日 第3回宮城県志教育支援事業推進会議
	第3回パネルディスカッション練習会・リハーサル
	2月 6日 中新田中学校区事例発表会
	2月24日 第6回中新田中学校区推進地区連絡協議会
	第3回北部管内大崎地区推進地区連絡協議会

中新田中学校区志教育テーマ

# 夢をいだいて大海をめざそう

志

ふるさと中新田に誇りをもち  
ふるさとを語れる大人に

中新田の学びを  
人生の礎に

## 中新田高等学校

加美町産業研究・職場体験学習・進路講話・社会人講話・出前授業  
社会人模擬面接・初午ボランティア・福祉ボランティア・町内清掃

中新田から  
学ぶ

中高交流事業

## 中新田中学校

職場体験学習・認知症サポート養成講座・あいさつ運動  
保護司会との交流・幼稚園実習・クリーン運動・火伏せの虎舞

中新田を  
学ぶ

希望

小中交流事業

### 中新田小学校

農家の方と交流  
ボランティア活動  
福祉体験

### 広原小学校

加美町自慢メニュー  
ペア学年活動  
縦割り遊び

### 鳴瀬小学校

農業体験  
地域学習

夢

小小交流事業

かかわる

もとめる

はたす

みやぎの志教育

3つの視点

人と「かかわる」

よりよい生き方を「もとめる」

社会での役割を「はたす」

加美町町民憲章

夢 海をめざし

愛 ふるさとに帰る

鮎の凜烈 川よ語れ

加美町教育基本方針

やさしさとたくましさ

学びと協働の心

地域に根ざした芸術文化

健康を実感する生涯スポーツ

### 3 実践の成果と今後の課題

#### (1) 実践内容

##### ① 連携行事

- ア 小中交流会（3小学校6年生による交流会）
- イ 小中交流会（学習体験・学習支援・部活動体験：中新田中学校区）
- ウ 中高交流会（部活動交流・ボランティア交流）

##### ② 推進地区啓発活動

- ア 事例発表会の実施（各校での体験学習、職場体験等の情報の共有、地域の方も含めたパネルディスカッション）
- イ 取組を紹介するリーフレットの作成および配布
- ウ 連携事業の紹介と案内状の配布（学校だより等での紹介、事例発表会の案内）

##### ③ 教職員間の連携

- ア 交流学习の取組（全職員がかかわり、児童生徒の活動を支援）
- イ 各校の志教育年間活動一覧表の作成（各校及び、各校間の活動をまとめたもの）

##### ④ 児童生徒の変容の記録

- ア 児童生徒の活動や振り返りシート等の記録の蓄積（指導実践の評価と改善）
- イ アンケートによる生徒の変容の把握（達成感や自己有用感）

#### (2) 実践の成果

##### ① 志教育による夢の育成

交流学习や活動を通して身の回りの人間関係が広がり、新たな価値に気付いたり、自分の発見につなげたりすることができた。小中交流では、3校合同の小グループで簡単なゲームを行ったり、将来の夢を紹介したりすることで、初対面だった児童が打ち解けて話すことができるようになり、「中学校でも会うことが楽しみになった。夢を聞いてもらい嬉しかった。また交流したい。」等の感想が多々出された。

また、各校の発表やグループでの話合いから、中新田地区のよさとして「自然環境の豊かさ、伝統的な行事、地区の方々の思いやり、生活しやすい環境」を確認し、今後、中新田地区をさらによくしていくために「もっと町をきれいになりたい、ボランティア活動に取り組みたい」等の意見が出され、中新田をもっと大事にしたい、という意識をもつことができるようになった。



小中交流会「中新田の良いところを考えよう」

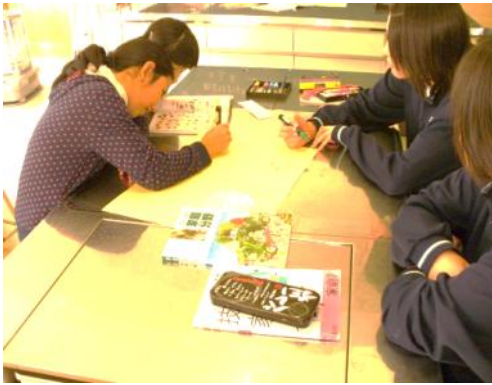
##### ② 小中高連携による情報や学びの共有

学習活動や部活動に共に取り組むことにより、知識や技能を向上させることができた。また、異校種間で「学ぶこと」「教えること」を双方向で実践することにより、自己有用感や自己肯定感を高めることができた。特に、小中交流会では、「小学生に尊敬される先輩になりたいと思った。」「音楽は自分にとって苦手な教科だったから難しいと思ったけど、やり遂げることができ



小中交流会「リコーダーを演奏しよう」

て嬉しかった。」「小学生に『こういう中学生になりたい』と思ってもらえるよう



小中交流会 「バランスのよい献立を考えてみよう」

に先生のような気持ちでサポートすることができた。」等の中学生の感想や、「中学生は一人一人が積極的に授業に取り組んでいた。疑問に思ったことを優しく教えてくれて、分かりやすかった。」「中学生はみんな教え方が上手で、初めに書いた字と教えてもらった後の字では全然違っていました。さすが、中学生だと思いました。」「算数の授業で中学生のお兄さんとお姉さんにたくさん丸をつけてもらってうれしかったです。教え方が優しくて、自分もそんな中学生になりたいと思いました。また来てほしい

です。」等の小学生の感想が見られ、互いに成果が実感できる活動となった。

中高の連携では、部活動における合同練習が主な内容であったが、高い技術をもつ高校生から直接指導されることで、自分の目指す目標をより具体化することができ、練習に対する意欲を向上させることができた生徒が多く見受けられた。

### (3) 今後の課題

#### ① 小中高を見通した志教育の取組

本年度、中新田中学校区で取り組んだ小中高の交流会は、いずれも児童生徒の姿が大きく変容した活動となった。中新田地区の児童生徒の特徴として、「人の役に立ちたい」と思う一方、「自分に自信がない」

「自分は学年や学級の中で役に立っていない」と思っている者も少なくないことが課題として挙げられる。今年度の実践を土台として、今後も、児童生徒の発達段階に応じた志教育を踏まえた教育課程を編成するとともに、地域の特色ある取組や創意工夫した実践について、異校種間において継続性のある学習活動にできるよう取り組んでいかなければならない。

#### ② 継続・発展的な取組

児童生徒の感想にも見られたように、各学校での取組について学び合う機会はとても大切である。今年度の取組を今後も継続・発展させ、さらに連携を強化したものにしていく必要がある。そして、校種を越えた実践をさらに工夫し、学ぶ世界を少しずつ広げながら、地域についてより深く学び、ふるさと中新田に誇りをもった児童生徒を育む中新田の志教育の推進を今後も目指していきたい。



小中交流会「徒然草」の学習

## 〈事例 1〉

## 小小交流会

### (1) 実践の概要

#### ① ねらい

- ・ 6年生同士で交流させ、仲間意識をもたせる。
- ・ 各校の志教育にかかわる活動を紹介し合うことで、中新田地区のよさを確認し、今後の中新田について考える。

#### ② 期 日

- ・ 平成26年10月7日（火） 13:30～15:00

#### ③ 活動内容

##### ア 交流会 I

3校を8グループに分け、簡単な交流ゲームを行った。ゲームをしながら、自己紹介をしたり自分の夢を発表したりした。

##### イ 交流会 II

全体で各校の志教育に関わる活動内容を発表した。その後、中新田のよさや将来の中新田についてグループ討議を行った。

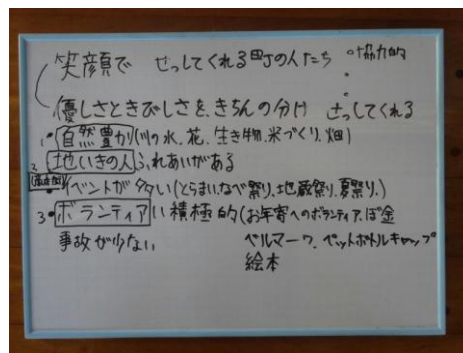
#### ④ 児童の感想

- ・ 私は交流会を通して分かった中新田のよさが3つあります。1つめは、中新田には私たちを受け入れてくれる地域の方々がたくさんいることです。2つめは、地域の方々とたくさん交流できることです。田植えなどの農作業やボランティアなどをついでに行うことで、たくさんさんの経験ができます。3つめは、豊かな自然があることです。他の学校の発表を聞いて中新田の特産物や伝統行事が分かりました。
- ・ 最初はきんちょうでしたが、班になって自己紹介したり自分の夢を紹介したりできました。夢を2つもっている人もいました。中学校で入りたい部活も紹介しました。電流ゲームや自己紹介などをして、初めて会った人とも仲良くなれてうれしかったです。

班で中新田のよさを考えました。伝統的なお祭り、地域の方々との交流や協力、田畑や生き物の多さがあげられました。みんなで意見を出し合い私も発表しました。中新田の良さはたくさんあることが分かりました。これからの中新田のために自然を大切にしていくこと、伝統を受けついでいくこと、地域の方と協力していくことが必要だと思いました。

- ・ 私は交流会を通して、「中新田のよさ」と

「これからも守っていききたい中新田」について考えました。中新田は自然がいっぱいできれいなところです。そして、地域のみなさんは、優しい人ばかりです。また、楽しい行事もたくさんあります。初午や鍋祭りなどは毎年、みんなが楽しみにしていて、盛り上がるお祭りです。ですから、遠くからもたくさんのお客さんが来ます。伝統的なお祭りは、これからも続けていきたいです。そして、中新田のよさを守っていくために必要なことも考えました。私はボランティア活動をしていて空き缶やペットボトルなどのゴミが落ちていることが分かりました。自然がいっぱいの中新田にはとてももったいないことなので、ゴミのないきれいな中新田にしたいです。当たり前のことですが、ゴミの分別をして捨てることを一人一人が気をつけられればもっと中新田は良くなると思いました。



「話合いで使ったボード」





交流Ⅰ「自己紹介と夢紹介の様子」



交流Ⅱ「3校の活動紹介」



交流Ⅱ「グループ討議の様子」



交流Ⅱ「討議の全体交流の様子」

## (2) 成果と課題

### ① 成果

- ・ 3校混合の小グループ（8名）で簡単なゲームを行ったり、将来の夢を紹介したりすることで、初対面だった子どもたちが打ち解けて話すことができるようになった。
- ・ 志教育にかかわる3校の活動紹介によって、学区内だけでなく中新田地区全体に視野を広げて、特色やよさなどを全体で共有することができた。
- ・ 3校の発表を受けて小グループで「中新田地区のよさ」について話し合った。各グループに教員が入り、話し合いを進めたが、次第に子どもたちが自主的に話し合う姿も見られるようになった。話し合いは、「中新田地区のよさ」から「将来、どんな中新田にしていきたいか」「そのためにはどんな取組が必要か」等、今後の中新田を見通した話し合いにつなげることができた。
- ・ 各校の発表やグループでの話し合いから、中新田地区のよさとして、「自然環境の豊かさ、伝統的な行事、伝統工芸、地区の方々の思いやり、生活しやすい環境（安全面・福祉面）」を確認した。今後、中新田地区をさらによくしていくために、「もっと町をきれいにしたい、心掛けだけでなく今できることを実行したい、伝統を受け継いでいきたい、ボランティア活動に取り組みたい」等の意見が出され、中新田を自分たちの力で大事にしたいという意識をもつことができた。

### ② 課題

- ・ 児童が有機的にかかわる交流会にするために、担当者の十分な打合せが必要である。1学期中の計画と準備があれば、2回の実施も可能だと思われる。
- ・ 3校の情報交換と話し合いに終わらせず、今後の加美町のためにできることを具体的に考えさせ、実践できるところまで引き上げていくことが必要である（今年度は、2月のパネルディスカッションを共通理解の場としたい）。

## 〈事例 2〉

## 小中交流会

### i 小学校 6 年生が中学校で交流

#### (1) 実践の概要

##### ① ねらい

(中学生)

- ・ 学区の小学 6 年生とともに授業したり，活動したりすることで自己有用感，自己肯定感を高める。

(小学生)

- ・ 中学校の授業や部活動を体験したり，中学校で行っている地域学習の一環の職場体験学習のプレゼンテーションを聞いたりすることで，半年後に始まる中学校生活に期待を抱かせる。
- ・ 中学 2 年生とともに活動することで，自分の 2 年後，3 年後の姿を考えさせる。

##### ② 期日 平成 26 年 11 月 18 日 (火)

##### ③ 活動内容

#### ア 授業体験 (13:50~14:20)

中学生と合同で，小学生が中学校の授業を体験した。



家庭～昼食のメニューを考えよう



音楽～くいしんぼうのラップ



保健体育～マット運動



数学～直角三角形の性質を知ろう



理科～刺激が神経を伝わる速さ



英語～英語すごろく

#### イ 中学校生活への質問タイム (13:25~14:35)

小学 6 年生が，中学校生活に対して疑問に思っていることを中学 2 年生に質問し，中学生はそれに回答した。

#### ウ 職場体験学習の発表 (14:40~14:55)

中学 2 年生が地域学習の一貫として行った職場体験学習について，3つの代表グループが小学生に対してプレゼンテーションを行った。



保健福祉課のグループの発表を聞き，実際に脳トレする小学生

## エ 部活動体験 (15:15～15:45)

中学校にある14の部活動のうち、小学6年生が希望する部活動に参加し、中学生とともに活動した。

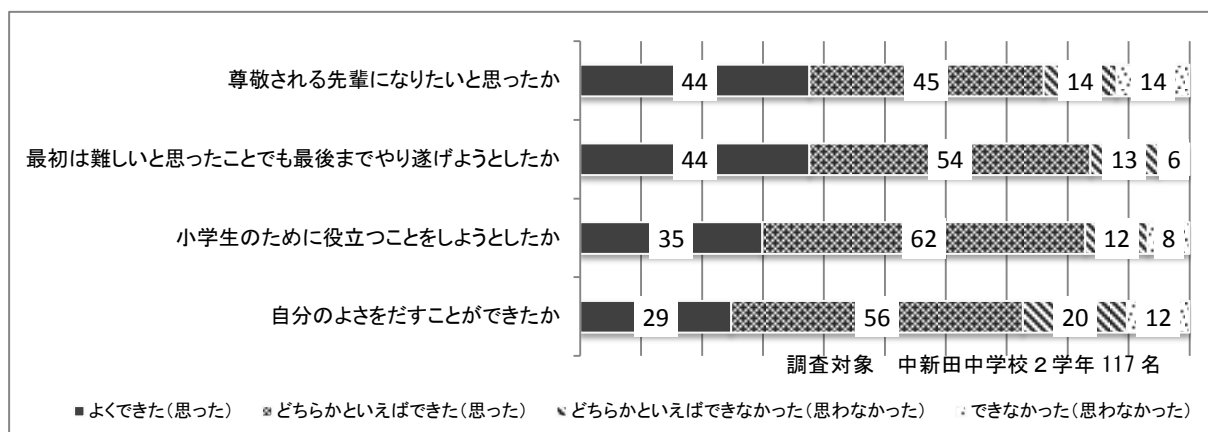
### ④ 感想

#### 〔体験した中学生の感想〕

- ・ 自分が中学校に入学するときは不安があったのでこのような機会があるのはよいと思った。小学生と活動したことで中学校がよい学校だと思われると嬉しい。
- ・ 小学生が中学校生活を知ることができたと思うし、中学生は自分たちが手本になり尊敬され、憧れるような先輩になれるようにするよい機会だったと思う。
- ・ 私たちはいつも先生にしてもらっていることを自分たちも体験することができた。また機会があったら自分たちでできることを見つけて頑張りたい。

#### 〔体験した小学6年生の感想〕

- ・ 中学生の勉強と部活の両立は難しいことだと分かりました。体験した理科の授業が楽しかった。緊張してあまりしゃべれなかったときに優しく声をかけてもらいました。少しですが、中学校はこんなところだということが分かりました。中学校に行くのが楽しみです。
- ・ 初めは中学校は先輩が厳しいとか、部活は日が暮れてからもずっとすると思っていたけどみんな明るく迎えてくれて安心しました。安心して中学校に入れると思いました。



## (2) 成果と課題

### ① 成果

- ・ 中学2年生にとっては、これまで自分たちが学習してきたことを小学生に教えたり、一緒に活動したりすることで、自己有用感の高まりが見られた。小学生に対して、よい手本となりたいという気持ちを持ち、困難を乗り越えようとする生徒が8割を超えた。
- ・ 小学6年生にとっては、中学校生活への不安解消につながった。また、自分も憧れる中学生になりたいという希望をもたせることにつながった。

### ② 課題

- ・ 設定時間に対して内容が多かった。体験内容の精選や吟味が必要である。
- ・ 中学生による職場体験学習のプレゼンテーションと小学生がこれまで行ってきた「地域学習」のつながりを明確にする指導が必要であった。

## 〈事例3〉

## 中高交流会

### (1) 実践の概要

#### ① ねらい

- ・ 中新田で学ぶ生徒として、地域に対して自分たちができることをお互いに考え、地域をよりよくしていこうとする態度を養う。

〈中学生〉

- ・ 2年後、3年後の自分の姿を具体的に描き、高校生活の目標をもたせる。

〈高校生〉

- ・ 中学生とのかかわりを通して、自己有用感、自己肯定感を高める。

#### ② 実践の内容

〈部活動交流〉

- ・ 年間を通して、部活動毎に交流。合同練習を行い、高校生が中学生に技術面の指導をしたり、練習試合を行ったりした。

〈ボランティア活動交流〉

- ・ 有志による鳴瀬川河川敷運動公園のゴミ拾いや地域のボランティア活動を合同で行った。

〈中新田高校卒業生による講話〉

- ・ 中新田高校、本校卒業生でもあり、第17回アジア競技大会カヌー男子スプリントカヤックシングル200M銅メダルとなった小松正治さんを学校に招き、全校生徒に「夢を叶えること」についての講話をしていただいた。



卒業生の講話の様子

### (2) 成果と課題

#### ① 成果

- ・ 交流した中学生の多くは、目標とする高校生の姿が具体化された。10年後、20年後の自分の未来を考えていく上で、スモールステップの目標をもつことができた。
- ・ 高校生にとっては、自らがリーダーシップをとって活動したことで、自己有用感の高まりが見られた。
- ・ 中高生とも、地域に対してできることを考えたことで、自分のふるさと（中学校区以外の高校生にとっては「学びのふるさと」）をよりよくしていきたいという気もちをもつことができた。

#### ② 課題

- ・ 地域ボランティア活動は、高校生が行っている活動に中学生も合同で活動できるものももっとあったが、日程調整ができなかった。年間を通して計画を立て、今後も継続して行うことで地域の方々にも「中高生の活動」として認知されるものとする。